



Wolfgang Huber 一九四二年生まれ。ハイデルベルク

ルク大学で神学博士号を取得。牧師を務めた後、マールブルク大学教授をへてハイデルベルク大学教授（組織神学）。ベルリンIIブランドンブルク大学シュレージシエ・オーバークラウジッツ州教会監督、その間ドイツ福音主義教会議長、世界教会協議会中央執行委員。教会論、ボンヘッファー研究などで多数の著書がある。邦訳「大地は主のもの」。

人権の神学！

法はわれわれの全生活に影響を及ぼす。それでは、正しい法とは何か、法と倫理、あるいは正義と法は、どのように関係するのか。

本書は法の神学的基礎を探り、人権を最重要価値として、複雑な現代世界における法治国家のあるべき姿を論じた大著。そのテーマは行刑から環境倫理にまで及び、さながら21世紀の法倫理のエンチクロペディーの観を呈す。

著者はキリスト教社会倫理の泰斗、ドイツ福音主義教会監督、またWCCの指導的神学者として活躍した。待望の邦訳。

正義と法

キリスト教法倫理の基本線

ヴォルフガング・フーバー著／宮田光雄監修／佐藤司郎、木部尚志、小嶋大造訳

3月25日発売

◆ A5判・上製・752頁・本体9500円

〔目次より〕

序説

A 法と倫理

- I 神学と法倫理学——問題への接近
- II 法と人倫——一つの関係規定
- III 純粹法か、正しい法か——哲学的論争
- IV 創造と義認——神学的論争

B 法と正義

- I 正義の終末論的性格
- II 公正としての正義
- III 正義と愛
- IV 正義と人間の尊厳

C 法と軋轢

- I 人間と自然——法の新たな諸課題
- II 罪と罰——刑法の自己限定
- III 国際法共同体への道——暴力禁止と人権
- IV 合法性と正統性——権利のための市民的不服従

終章 法と教会——教会法の範例的性格

誰にも言わないと言ったけれど



ジェイムズ・H・コーン著／榎本空訳 黒人神学と私

黒人神学の先駆者として、現代神学史に後退不可能な一步を刻み込んだ著者の最後の著作。キング牧師やマルコムX、ジェイムズ・ボールドウインらの先人や黒人民衆への思いを率直に吐露し、自らの神学形成の道程を綴った貴重な自伝。待望の邦訳ついに刊行。

3月25日発売

◆四六判・上製・280頁・本体3000円

詩篇の思想と信仰 V 第101篇から第125篇まで

月本昭男著 本邦最大級の詩篇注解全6巻、ついに完結！

詩篇を深く理解し味わうための必読書。厳密な私訳、詳細な語釈、各詩篇の構造と成り立ちの分析、そして思想と信仰について、行き届いた解説を施す。古代オリエント学に通暁する著者にして初めて可能となった周辺世界への広い目配りにより、ヤハウエ信仰の詩文学の本質に迫る。第I巻刊行から17年を経て完結。

3月10日発売

◆四六判・上製・424頁・本体3900円



全6巻の内容

- | | | |
|-----|----------------|---------|
| I | 第1篇から第25篇まで | 本体3200円 |
| II | 第26篇から第50篇まで | 重版準備中 |
| III | 第51篇から第75篇まで | 本体3300円 |
| IV | 第76篇から第100篇まで | 本体3200円 |
| V | 第101篇から第125篇まで | 本体3900円 |
| VI | 第126篇から第150篇まで | 本体3400円 |

ジャン・カルヴァン著／森川甫訳

共観福音書註解 下巻

マタイ・マルコ・ルカの三福音書を対観しながら記された注解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。出版された二五五年は、ジュネーブにおける騒擾と自身の持病の顕在化などカルヴァンにとって多難な時期だった。上巻の刊行から三六年ぶりの邦訳完結となる。 A5判・予価8500円

ドロテー・ゼレ著／山下秋子訳

逆風に抗して ゼレ回想録 「仮題」

神学に核心的な視点をもたらし続けて斯界を震撼させてきたゼレ（一九二九—二〇〇三）。戦時下の幼い日々から多感な少女時代、神学修行時代、そして子どもを抱えながらの離婚と再婚、解放の神学やフェミニスト神学との出会いと実践活動など、自らの人生行路を赤裸々に綴る。逆風に負けまい不屈の精神と知性、そして美的なものに開かれた感性が随所にきらめく人格を、生き生きと伝える自伝の傑作。 ◆四六判・予価3600円

ヴィクトール・フランクル著／広岡義之ほか訳

究極的意味の探求 識られざる神「仮題」

戦後まもなくウィーンで語られた講演「識られざる神」を主要な内容とする本書は、フランクルの宗教思想を詳しく展開した極めて興味深いものであり、強制収容所のごとき想像を絶する苦難を経てなお固くされる神信仰を、精神分析の視点から弁証した神義論の書でもある。

◆四六判・予価3000円

● 2月に出た本と雑誌

現代神学の冒険

芦名定道 新しい海図を求めて



現代神学の課題は多岐にわたり、様々な方法論や主張が交錯している。著者は、驚くべき該博な知識と鋭利な分析力によって現代神学の思想的課題を明らかにし、進むべき方向性を展望する。

◆A5判・本体3400円

平和憲法とともに

深瀬忠一の
人と学問

稲正樹・中村睦男・水島朝穂編



北大法学部で長く憲法学を講じ、平和的生存権の理論を構築するとともに、恵庭・長沼の憲法裁判に深く関与、理論と実践の両面で平和憲法の定着に生涯を捧げた憲法学者の遺産を探る。

◆四六判・本体2000円

福音と世界

◆税込647円

3月号 リプロダクティブ・ヘルス&ライツ

寄稿者：大橋由香子、芦野由利子、塚原久美、瀬山紀子、大嶋果織、高橋さきの／好井裕明、土井健司、マニエル・ヤン、松本あずさ、長谷川修一、辻学、山口政隆、石井光太、内田樹

●昨年刊行の『ヒップホップ・レザレクション』（山下壮起著）は、多数の音楽メディアで紹介され小社としては異例の書籍となりました。著者の山下さんには他社媒体からの執筆依頼もたびたび届いているそうです。ところで、ポスト公民権運動時代の世俗的霊歌としてヒップホップを論じた同書に基本的な視座を提供していたのが、ジェイムズ・H・コーン（小社刊）の『黒人霊歌とブルース』（小社刊）でした。コーンといえば黒人解放の神学の泰斗ですが、現在準備しているのはその遺作『誰にも言わないと言ったけれど』です。書名・各章タイトルを黒人霊歌の歌詞に負った同書では、人種差別の経験、黒人神学者としての苦闘といったコーンの人生の歩みが歌うようにつづられています。興味深いのは、コーンが黒人音楽の福音の系譜上にヒップホップを認めているところですね。ここには『ヒップホップ・レザレクション』との明らかな共鳴があります。そのうえでコーンはヒップホップについて多くを語りません。おそらくその役割は次世代へと託されたのではないのでしょうか。いま、福音をストリートの現実へと文脈化する役割を担っているのは、ケンドリック・ラマーやチャンス・ザ・ラッパーといったラッパーたち。コーンの遺した問いに答えるためには彼らの声に耳を傾ける必要があるはず

です。三月二五日の刊行後に『誰にも言わないと言ったけれど』をお求めの際には『ヒップホップ・レザレクション』も合わせてぜひ。そしてそのあとはCD ショップもハシゴしていただきたいと思っています。（堀）

●日本のキリスト教会が、いや宗教界全体が敬して遠ざけてきたのが、法との取り組みではないでしょうか。法は外的生活に、宗教は内的生活に関係するという観念もその敬遠に一役買っていると思います。また法は煩瑣な規則の体系なので、その扱いは高度な訓練を経た専門家に委ねるしかないと考えられがちです。しかし法は現代生活のあらゆる側面を覆っています。憲法から膨大な個別法、条例に至るまで、法は行政府に様々な権限を与えたり制限したりし、市民にも同様のことを行つて、その影響は極めて重大です。法を特定のイデオロギーに従属させることはもちろん許されませんが、さりとて法と倫理が無関係になつてもなりません。キリスト教が現代世界に何らかの関わりを持つとうとするなら——とりわけ人権の視点から——法との取り組みは避けられないでしょう。準備中のフーパー『正義と法』は読み通すのがたいへんな大著ですが、従来ほとんど顧みられてこなかった法と神学の関係について、極めて多くを考えさせてくれる良書です。（小林）

福音と世界

2020年
4

A5判・80頁・定価635円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8460円

特集・〈家族〉をほどこす

傷を覆つ——寺尾紗穂

コンヴィヴィアルな「男らしさ」と——渋谷望

新自由主義——

セクシュアル・マイノリティのカップルと——神谷悠介

異性愛家族——

ヤングケアラー・若者ケアラーとその「家族」——松崎実穂

へのまなざし——支援や「対策」の前に考——

えておきたいこと——金在源

家族を超える——

【コラム】家族の終わり、愛の始まり——青藤綾子

【書評】『それはあなたが望んだことですか』——

【報告】日本・在日・韓国 女性神学フォーラム——

【新連載】——

◆いまを生きるのみことば 1………金 迅野

◆I Say a Little Prayer 開かれる世界 1………栗田隆子

【注目の連載】——

◆新約釈義 第三モテ書 1………辻 学

◆くまさんのシネマめぐり 4………好井裕明

◆教父学入門 8………土井健司

◆バビロンの路上で 13………マコエル・ヤン

◆遺跡が語る聖書の世界 15………長谷川修一

◆レヴィナスの時間論 60………内田 樹